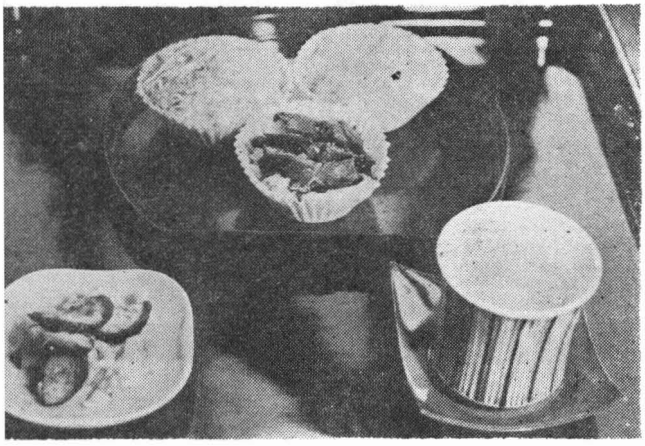
琉球大学学術リポジトリ

ジャガイモの手入れ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 島袋, 正雄, Shimabukuro, Masao メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20387

3. 変りずし

子供や若い方々に一寸腹応えのあるおすしは如何でしようか。



かわりずしとつけもの

ス飯	3カップ
しいたけ	大2枚
金糸卵	2コ分
でんぶ	大サジ5
カップケーキ用紙コップ	15枚

1　ス飯を紙コップに盛る（1人3コ）。

2　繊切にして醤油砂糖で味付したしいたけ、金糸卵、でんぶを夫々にのせる。

4. 野菜の一夜漬

ごちそうの後はあっさりした漬物を忘れずに。

キャベツ	3枚
きゆうり	1本
なす	2本
しようが	少々
水	½カップ
塩	大サジ2

1　キャベツはあら目のせん切りにしきゆうり、なすは半月切に粗く刻んだしようがをまぜておく。

2　食塩水を作りこの中に材料を入れ圧しをする。

（家政学科調理研究室）

ジャガイモの手入れ

芽　か　き

1株から出る芽の数は、種いもの熟度によって異るが、多いときには小さい芋の数が多くなって、大きい芋は出来ません。そのために丈夫な芽を1本又は2本を残して、他は種いもを動かさないように指先で押さえて、芽のつけ根からちぎって下さい。芽かきの時期は、芽が9糎内外に伸びたころが適当であります。余り早すぎたり又15糎以上に伸びても成績はよくありません。

追　　肥

じやがいもの肥料はその大部分を基肥として施すのでありますが、追肥として速効性の窒素肥料を2回に分けて施します。第1回は発芽して6乃至9糎に伸びたころ硫安ですと10アール当り18瓩、さらに3－4週間後に37瓩位施します。じやがいもは発芽後の生育の早い短期間の作物ですから、追肥がおくれると生育もおくれて芋の揃いも悪く収量が少なくなります。

土　寄　せ

じやがいものいもは地表から10糎位の所に形成されて肥るといわれておりますが、土寄せはいもの肥大に適当な、軟く空気の流通のよい土層を作るだけでなく、高畦になることによって、畦の中の昼夜の温度の差を大きくして、日中、葉に出来た養分を能率よくいもの方に流して、いもの肥大を助長します。又土寄せによって疫病の伝染防止にも役立てることができます。

土寄せの程度については、一般的には植付けた時の覆土が浅ければ土寄せを厚くし、覆土が深ければ土寄せを浅くするように加減しておりますが、浅植にして芽を早

（9ページの右につづく）

（5ページの台湾の畜産のつづき）

豚の保健共済事業と協同販売

前述したように豚は、台湾の重要家畜であって、農家の現金収入源となり、農家経済をうるほすことが大きいので、若し豚が斃死したりすると農家に与える打撃も大きい。戦後の混乱期には、豚コレラが流行し、1か年に4万頭の豚が死んだこともあって農家は、非常に困ったことがあったという。

高雄県農会では、豚の保健共済事業の必要を痛感し、1956年にこの事業を開始している。この保健共済事業というのは、県農会と町村農会の協同の下に運営されていて、保健共済事業に加入しようとする農家は、豚1頭に付、肉豚は50仙、種豚は1弗を、保健共済費として農会に納める。保証される期間は、肉豚は10か月、種豚は12か月である。各町村農会には、専門獣医が数人配置されているから、加入豚に対しては、豚コレラ、豚丹毒等の予防注射を無料で行い、豚が病気になった場合は、無料で治療してやる。不幸にして豚が死んだ場合は、豚の時価の80%が保証されるということである。

1959年には高雄県のみで、加入頭数7万4千頭、加入率36.4%に上っているが、現在では、台湾全体に普及しつつあるという。政府の補助は殆どなく、農家の納入する加入金のみで全経費が、まかなわれているが、これが日本の場合であったら、政府の補助が、少くとも3分の1は交付されるだろうと考えた。生産された肉豚は、町村農会と県農会が協同して、出荷販売をやり、農家の利益を保護している。今年9月の生豚市場価格は、次のようであったが、今年は安値で、採算がとれないという話であった。

生豚72kg	(120斤)	45弗
84	(140斤)	45.75
106	(175斤)	46.50
128	(213斤)	47.25

（松　田　祐　一）

（4ページのジャガイモのつづき）

く出し、且つ揃えてから10糎内外を標準として土寄せを行う方がよいと思います。土寄せは1回に行うのではなく2回又は3回に分けて行い、第1回は芽が8糎内外に伸びたころ、第1回の追肥と同時に行い、最後の土寄せは、茎葉が十分伸びて、花の咲く1週間位前までに終るべきです。おくれると根を多く切って、却って障碍となりますから時期を失しないようにすべきです。

中　耕　と　除　草

中耕は土壌を軟かにして土中の空気や水の流通を助け、肥料の分解や根の発育を促すので、ぜひ必要な作業ですが、それは土寄せの際に除草も兼ねて行うのが便利です。中耕の際は株元深くすきこんで根を多く切ることのないように致しましょう。

病害虫の防除

じゃがいもの病害で最もはげしいものはバイラスと疫病です。

バイラスは日本政府の種芋の検査合格証印のついた健全な種いもを用うれば一応安心してよいと思います。

普通沖縄で最も被害の多いのは疫病です。昨年2月には相当広い範囲にわたって発生し、大きな被害を与えております。この病気は割合に高温多湿の日が続くと発生が多いといわれ、2－3月ごろによくみられます。

疫病は最初葉に不規則な暗かつ色の病斑が現れ、次第に茎に及びます。その蔓延は極めて激しく短時日で畑全体に拡って茎や葉が腐敗します。いもにも伝染しますが、病害を受けたいもは貯蔵すると、患部はくぼみ、しわができて形がくずれてきます。この病気は発生したらなかなか喰い止めることが出来ないので何よりも予防が肝心です。

植付前に必ずミクロヂンかウスプルンなど、700－800倍液に20－30分浸漬して種いもの消毒を怠らないように致しましょう。

植付けて４０日目ごろから「フジボルドー」を水１８立に４５瓦の割合にとかすか、「ダイセン水和剤」を水１８立に３８瓦の割合にとかした液を１週間おき位に３ー４回散布するように心掛けていただきたいと思いますなお連作をさけることも忘れてはいけません。

虫の害はいまの所、大きな被害は与えておりませんが「アブラ虫」や「テントウムシダマシ」がおりますのでＢＨＣやＤＤＴ、マラソン剤等で駆除して下さい。

以上じやがいもの手入れについて申し上げましたが、じやがいもは栽培期間が短く、収穫量は多く、比較的労力のかからない作物である上に、割合に高価に売れ、しかも長い期間貯蔵にも耐えるので沖縄のような狭い土地を耕している農家にとっては、頗る経済的な能率的作物といえます。又戦後の食生活の改善や、外人への納入もあってその需要は益々増えつつありますので農家の皆さんもじやがいもの栽培にさらに一段の工夫と努力を希望致します。

（島　袋　正　雄）